

ヘブル語のアラカルト

トールドートの大切さ

No.1

聖書における「歴史」は神の啓示の舞台です。
歴史のことをヘブル語で「トールドート」と言います。
「トールドート」は、「系図、系列、由来、路線」
とも訳されます。神の約束は歴史の中で語られ、
歴史において実現します。それゆえ、人間の歴史
(系図)はとても重要なのです。

【新改訳2017】 マタイの福音書 1章1節

「**アブラハムの子、ダビデの子、イエス・キリストの系図。**」

イエス・キリストの系図がアダムから始まっていなければ、キリストは「最後のアダム」とは言えないはずですが、では、なぜ、マタイは系図をアダムから始めなかったのでしょうか？

ルカの福音書では、イエシュアはヨセフの子として、順次、遡って、アダムに至り、アダムは神の子だと記されています(3:23~38)。

答えのヒント

**イエス・キリストの系図には、
始まりがアダムで
あることが記されています。どこに？**

**ヒントは、1章1節の中にあります。
※ヘブル語の知識が多少あれば、分かるはずです。**

アブラハム～ダビデまでが14代

ダビデ～ヨシヤまでが14代

エコニヤ～イエス・キリストまでが14代

マタイは系図(トールドート)を三つの段階に分けて、それぞれを14代に整理しています。

それぞれを14代に整理しているのは、
イエシュアがダビデ王の系図であることを
強調しています。マタイの1章6節を見ると、
この箇所だけ「**ダビデ王**」と表示されています。

ダビデのヘブル語表記は **דָּבִיד** です。

この**דָּבִיד**を数字に置き換えると

$$4+6+4=14$$

アブラハム

אברהם

ダビデ

דוד

イエス・キリスト

משיח

アブラハム

אברהם

ダビデ

דוד

イエス・キリスト

משיח

אדם



※母音記号をつけて読んでみよう。

アブラハム

אַבְרָהָם

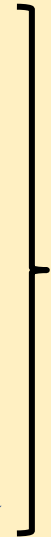
ダビデ

דָּוִד

אַדָּם

イエス・キリスト

מִשִּׁיחַ



※ さらなる驚きは、

固有名詞のアダムだけでなく、

妻のエバの名前(ハツヴァー)も隠されています。

アブラハム

אַבְרָהָם

ダビデ

דָּוִד

イエス・キリスト

יֵשׁוּעַ



אַדָּם

アブラハム

אַבְרָהָם

ダビデ

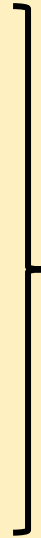
דָּוִד

イエス・キリスト

מִשִּׁיחַ

אָדָם

חַוָּה



マタイはヘブル語で福音書を書いた

このようなことは、日本語に翻訳された聖書では分かりません。

ヘブル語で読む時に、初めて明らかにされるのです。